

笑顔と感謝がつなぐ未来

岡山県病院薬剤師会会長
岡山赤十字病院副院長・薬剤部長
森 英樹 Hideki MORI



暑中お見舞い申し上げます。岡山県病院薬剤師会会長を拝命し3期目に入りました森 英樹と申します。ホップ・ステップ・ジャンプの仕上げる期になります。医療業界は、非常に厳しい時代に突入しており、医業費用における材料費の高騰は避けることができません。薬剤部長など役職者だけでなく、薬剤部員も如何に材料費を抑え、診療報酬の取り漏れをなくすかを日々考えながら、患者に寄り添わなければなりません。医師の働き方改革でタスク・シフト/シェアに知恵を絞り邁進している薬剤師の負担軽減も同時に考えなければならない大変な時代の真っ只中にいます。それゆえ医療DXやrobotic process automation (RPA) が必須ではありますが、人の温もりや心の温もりを忘れないように医療人としてのプロフェッショナルリズムを発揮する必要があります。

病院薬剤師の魅力は語り尽くせないほどたくさんあります。薬学教育の六年制に伴い給与体系における医療職俸給表(二)からの脱出は必須だと考えます。医療職(一)の仲間入りなら最高ですが、医療職(1.5)でも構わないと思っています。薬剤師単独がもちろんよいですが、例えば経営学修士(MBA)を取得している方や、看護特定行為研修修了者なども含むと提案すれば反対は少ないかもしれません。少し古いですが2020年のデータでは病院・診療所の看護師数は136万人、薬剤師数は6万人でした。圧倒的な差はありますが、我々病院・診療所に勤務する薬剤師は武田泰生会長をしっかりとバックアップし、エビデンスの構築に汗を流さなければなりません。2024年度診療報酬で新設された「がん薬物療法体制充実加算」も今は少ない点数かもしれませんが、診察前に薬剤師がアプローチすることの重要性が評価され、大幅に増点されることを願っています。1988年に新設された服薬指導100点業務は今、数十倍になっている計算です。先述したように薬剤師の職能を生かした業務は、病院内外で多くのかかわりがあると思われます。

薬剤部は、常に心理的安全性の高い職場でなければならないと思います。そうしなければ、良い医療・良い服薬指導・良い傾聴はできないのではないのでしょうか。よく人は“忙しい”と口にします。“忙しい”を調べてみると次のように書いています。1. 多くの用事に追われて暇がない。多忙である。2. せかせかして落ち着かない。せわしない(忙しい)。3. 多くの仕事や予定があり、時間に余裕がない状態を指す。つまりやるべきことが多く、ゆっくり休む時間がないと感じること。と書かれています。忙しいとは、その人の処理能力を超えているのかもしれない、処理能力が十分あれば、忙しいとは思わないのかもしれませんが。日本の文化で、電話口で“お忙しい折、すみません”という前置きをよく言われますが、これは礼儀であり、あなたの能力がないと言っているわけではありません。ある落語家が“忙しい人には時間がある。暇な人には時間がない”と言っています。心にしみる言葉であり角度を変えて考えてみると、忙しい時ほど周りに笑顔で接しなくてはなりません。患者にはもちろんのこと、職場のスタッフにも心に余裕をもって笑顔で会話しなければなりません。それが医療人の基本だと考えています。研鑽第一主義になっている現代社会で一番大切なのは、心の余裕からくる笑顔ではないのでしょうか“笑顔は患者の不安を必ず取り除きます”。

最後になりましたが、岡山県病院薬剤師会の皆様方、日赤薬剤師会の方々、そして岡山赤十字病院、岡山赤十字玉野病院の皆様に感謝します。そして“忙しい”薬剤部長ですが文句ひとつ言わず、バックアップしてくれている薬剤師、スタッフ、SPDの皆様に深く深く感謝致します。